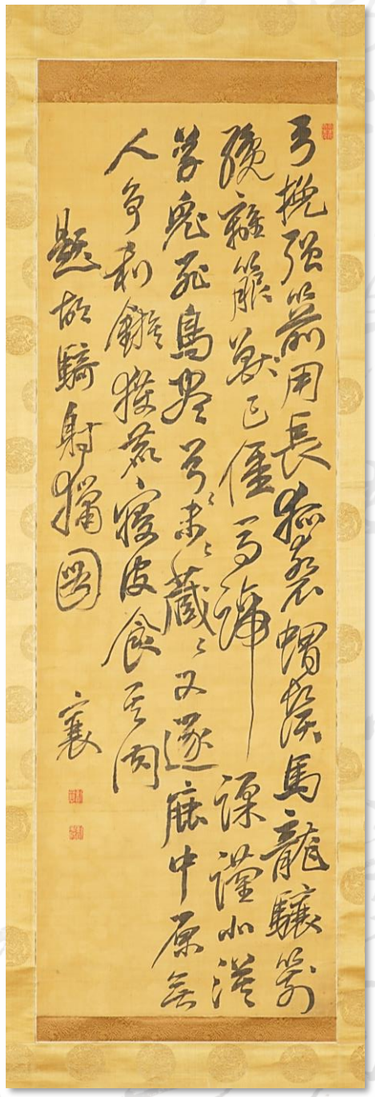
令和7年 4月5日(土)→5月25日(日) 前期 —条幅を中心に—

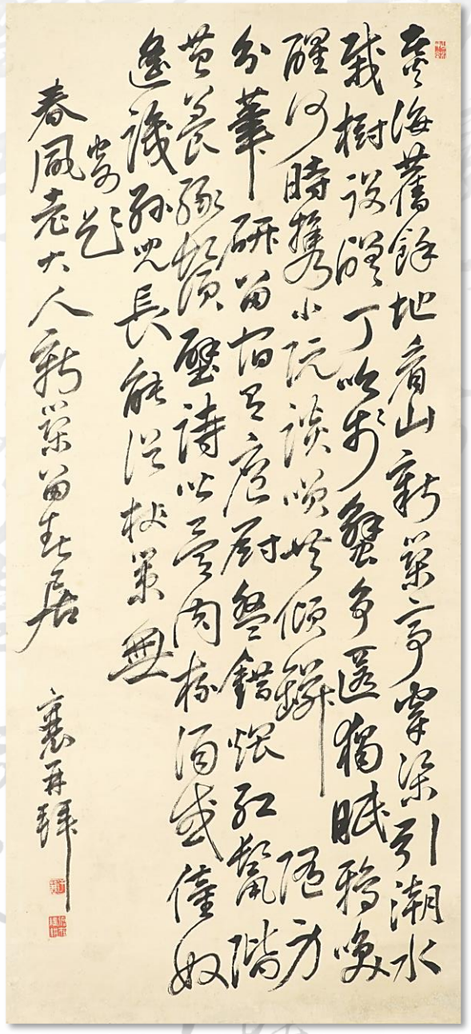
頼山陽はその生涯を通じて書の研鑽を積み、数多くの作品を残しました。上京後は自由人として生きた山陽の生活を支えたのは書でした。山陽の没後には、その遺墨を謄写して版木を作って出版された法帖（お手本）が数多く出版され、多くの人々に影響を与えました。

法帖として出版されたのは中年期以降の作が大半であり、中国宋代の書人米芾の影響が色濃い中年期以降の書風を山陽流と定義してもよいでしょう。

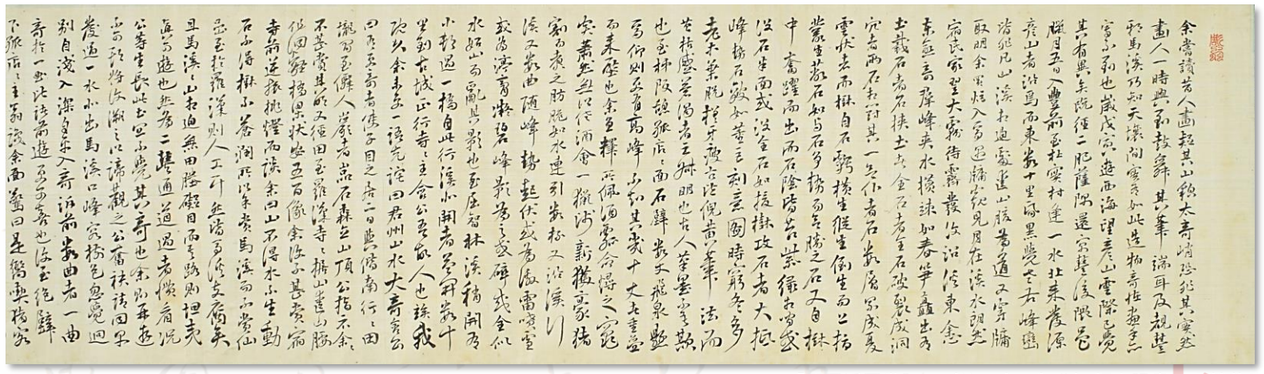
本展は前後期に分けて開催しますが、前期では中年期以降のいわゆる〝山陽流〟の条幅作品を中心に紹介します。幕末に一世を風靡した山陽流の魅力はどこになるのか。作品を通して探っていきます。



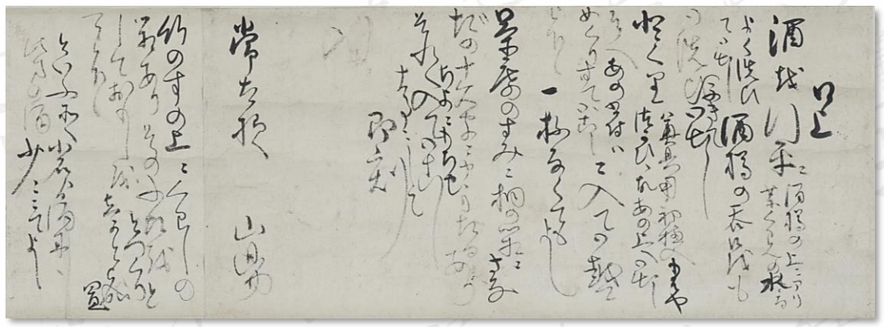
「題胡騎射猟図」頼山陽書　個人蔵（当館寄託）



「留春居寄題詩」頼山陽書　個人蔵（当館寄託）



「耶馬渓図巻記」（竹下本・部分）頼山陽書　当館蔵



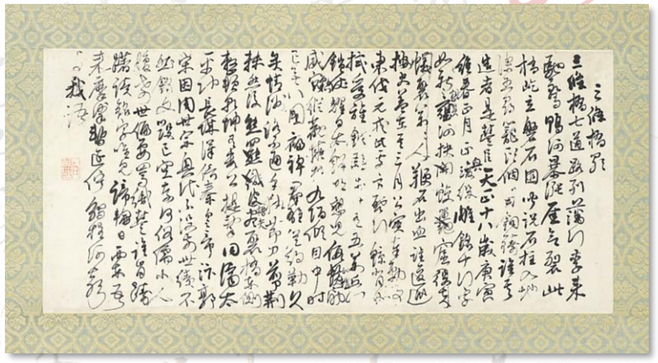
常太（頼立斎）宛頼山陽書簡　当館蔵

後期 令和7年 5月31日(土)→7月13日(日) —小字書の魅力—

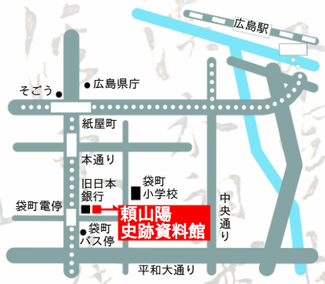
頼山陽の没後、その遺墨を謄写して版木を作って出版された法帖（お手本）が数多く出版され、多くの人々に影響を与えました。出版された法帖の中には、山陽生前の手紙を集めた『山陽先生手簡』もあります。手紙の名人といわれた山陽の軽妙な文章と抑揚に富んだ筆跡は多くの人に珍重されました。

「文は山陽」と評され、撰文（文章を作ること）を頼まれることが多く、文筆家として名高かった山陽は小字書の名手でもあります。父春水は細楷（小字の楷書）を得意としましたが、山陽の真骨頂は流麗な行草書にあります。リズミカルな筆致とその筆力は他の追随を許しません。

後期では中年期以降のいわゆる〝山陽流〟で書かれた作品を中心に紹介し、小字書に現れた山陽書の特質とその魅力に迫ります。



「三條橋歌」（草稿）頼山陽書　当館蔵



頼山陽史跡資料館

〈交通案内〉
ＪＲ広島駅から20分
・広島市都心循環バス〈エキまちループ〉101号線「左回り」袋町下車すぐ
・広電電車１号線「紙屋町経由広島港行」袋町下車すぐ
・広電バス３号線「マリーナホップ行」袋町下車すぐ
・広島バス21号線「宇品線」袋町下車すぐ
アストラムライン本通駅下車3分

展示解説会
前期　４月12日（土）４月26日（土）５月５日（月・祝）
後期　６月７日（土）６月21日（土）７月５日（土）
各日午後１時30分から（通常の入館料が必要です）